

ふりがな

いかわ ちとせ

氏名

井川 ちとせ

## 1. 学歴

- 1993年3月 同志社大学文学部英文学科卒業  
1993年4月 早稲田大学大学院文学研究科修士課程 英文学専攻 入学  
1995年3月 早稲田大学大学院文学研究科修士課程 英文学専攻 修了  
1995年4月 お茶の水女子大学大学院博士課程 人間文化研究科 比較文化学専攻 入学  
1998年10月 オックスフォード大学クィーンズ・コレッジ留学 (1999年9月まで)  
2004年3月 お茶の水女子大学大学院博士課程 人間文化研究科 比較文化学専攻 単位取得退学

## 2. 職歴・研究歴

- 2005年4月 一橋大学大学院社会学研究科 専任講師  
2009年4月 一橋大学大学院社会学研究科 准教授  
2013年4月 一橋大学大学院社会学研究科 教授  
2014年8月～2015年8月 キール大学人文科学・社会科学研究科 客員研究フェロー

## 3. 学内教育活動

### (A) 主な担当講義名

#### (a) 学部学生向け

社会と文化、ヨーロッパの社会と文化

#### (b) 大学院

社会文化論原典講読、文芸思想研究

### (B) ゼミナール

学部後期、大学院

## 4. 主な研究テーマ

イギリス近現代の社会と文学。エドワード朝英国を代表する作家アーノルド・ベネット (Arnold Bennett, 1867-1931) の書き物を中心に、1880年代から1930年代にかけての文学テキスト生産の物質的コンテキスト、研究対象としての英文学の制度化の過程、ジャーナリズムと学術研究という2つの領域間の交渉、独学者向けのセルフヘルプ市場などを考察する。近年は加えて、1970年代以降、精神分析学とマルクス主義思想の影響のもと広く実践されてきたテキスト解釈の方法を批判的に検討すると同時に、一般読者にとっての読むことの意味を実証的に研究している。

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### (a) 著書・編著

- ・中央大学人文科学研究所編『英国ミドルブラウ文化研究の挑戦』（共著），中央大学出版部,2018.3.26（分担部分：序,1-26;「ミドルブラウ」ではなく「リアル」—現代英国における文学生産と受容に関する一考察—,399-430）
- ・井川ちとせ・中山徹編『個人的なことと政治的なこと—ジェンダーとアイデンティティの力学』（共編著），彩流社,2017.3.31（分担部分：はじめに,3-11; 抑圧と解放?—ヴィクトリア朝小説に見る生命、財産、友情、結婚—,159-81）
- ・John Shapcott (ed.) *An Arnold Bennett Companion* (co-author), Churnet Valley Books, 2015.4.20（分担部分：Bennett and the Philosophy of Self-Help, 209-27）
- ・三浦玲一・早坂静編『ジェンダーと「自由」—理論、リベラリズム、クィア』（彩流社,2013.3.25（分担部分：主体化、ジェンダー化,151-72）
- ・中井亜佐子・吉野由利編『ジェンダー表象の政治学—ネーション、階級、植民地』（共著），彩流社,2011.3.31（分担部分：一九世紀イギリスの選挙法改正と〈男らしさ〉の定義,91-115）
- ・木本貴美子・貴堂嘉之編『ジェンダーと社会—男性史・軍隊・セクシュアリティ』（共著），旬報社,2010.6.15（分担部分：二〇世紀転換期イギリスの事務職員と〈男らしさ〉,84-109）
- ・中野知律・越智博美編『ジェンダーから世界を読む II—表象されるアイデンティティ』（共著），明石書店,2008.12.30（分担部分：ジェンダー・アイデンティティという虚構,10-27）
- ・竹村和子編『“ポスト”フェミニズム』（共著），作品社,2003.8.10（分担部分：〈キーワード〉解説,210-11）
- ・二十世紀英文学研究会編『二十世紀英文学再評価』（共著），金星堂,2003.6.10（分担部分：父殺しはおこなわれたか?—アーノルド・ベネットの『クレイハンガー』,19-37）
- ・大平章他編『ロレンス文学鑑賞事典』（共編著），彩流社,2002.9.30（分担部分：XI. 洋文献案内〔15点の案内,403-33〕,XII. 和文献案内〔2点の案内,439-82〕）

## (b) 論文

- ・「読書会の効用、あるいは本のいろいろな使いみち—イングランド中部 T グループの事例（1）—」『言語文化』 通巻 57 号,81-103, 一橋大学語学研究室,2020.12
- ・「情動と「多元呑気主義」—ポストクリティークの時代に D. H. ロレンスを読む—」『言語文化』 通巻 56 号,57-78, 一橋大学語学研究室,2019.12
- ・「リアリズムとモダニズム—英文学の単線的発展史を脱文脈化する—」大杉高司編『一橋社会科学第 7 巻別冊 特集:「脱／文脈化」を思考する』,61-95,2015.5
- ・「少女は何を欲しているのか?—ガーティ・マクダウエルの交叉する視線—」『Joycean Japan』 通巻 20 号,46-63, 日本ジェイムズ・ジョイス協会,2009.6
- ・「ガーティのケース—『ユリシーズ』第 13 挿話のメランコリックなヒロイン—」『言語文化』 通巻 45 号,17-33, 一橋大学語学研究室,2008.12
- ・“Masculinity and Franchise Reform in Britain” F-GENS ジャーナル編集委員会 菅聡子・天野知香編『F-GENS ジャーナル』 通巻 4 号,21-28, お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム・ジェンダー研究のフロンティア,2005.9
- ・「一日 24 時間でどう暮らすか?—アーノルド・ベネット氏の提案する新しいライフスタイル—」『えちゅーど』 通巻 31 号,1-12, お茶の水女子大学英文学会,2001.11
- ・「アーノルド・ベネット『クレイハンガー』—産業資本社会における私的自律のアイロニー—」『人間文化研究年報』 通巻 24 号,9-16, お茶の水女子大学人間文化研究科,2001.3
- ・“Domestic Ideology and the House as a State of Mind in Arnold Bennett's *The Old Wives' Tale*” 『人間文化研究年報』 通巻 23 号,20-27, お茶の水女子大学人間文化研究科,2000.3

- ・「消費社会への転換期におけるクリフォード・チャタレイの転向の意味」『D.H.ロレンス研究』 通巻 8 号, 28-41, 日本ロレンス協会, 1998.3
- ・“Authorship, Patriarchy, and the Consumer Society: An Essay on *The Lost Girl*” 『人間文化研究年報』 通巻 20 号, 316-23, お茶の水女子大学人間文化研究科, 1997.3
- ・「『思想の冒険』としての旅—D.H.ロレンス『アロンの杖』『えちゅーど』 通巻 27 号, 1-12, お茶の水女子大学英文学会, 1996.11

### (c) 翻訳

- ・「個人的なことは政治的なこと」(原著: Carol Hanisch, “The Personal is Political: The Women's Liberation Movement Classic with a New Explanatory Introduction by Carol Hanisch”, www.carolhanisch.org, 2009 年, 英語), 井川ちとせ・中山徹編『個人的なことと政治的なこと—ジェンダーとアイデンティティの力学』, 彩流社, 2017.3.31
- ・『マクミラン版世界女性人名大辞典』(原著: Jennifer Uglow, *The Macmillan Dictionary of Women's Biography*, Macmillan, 1999 年, 英語), 竹村和子監修, 国書刊行会, 2005.1.23
- ・『ジェイムズ・ジョイス』(原著: Edna O'Brien, *James Joyce*, Viking, 英語), 岩波書店, 2002.9
- ・「『良心がわたしたち皆を主体にする』—アルチュセールの主体化/隷属化」(原著: Judith Butler, “Conscience Doth Make Subjects of Us All”, Stanford University Press, 1997 年, 英語)『現代思想』 第 28 巻第 14 号, 青土社, 2002.12.1
- ・「複雑さを否認すること—クィア、レズビアン、ゲイの理論におけるバイセクシュアリティの一蹴と流用」(原著: Christopher James, “Denying Complexity: The Dismissal and Appropriation of Bisexuality in Queer, Lesbian, and Gay Theory”, New York University Press, New York, 1996 年, 英語)『ユリイカ』 第 30 巻第 2 号, 青土社, 1998.2.10

### (d) その他

- ・Chitose Ikawa and Randi Saloman (eds.) *Arnold Bennett: Friends and Acquaintances* (co-author), Arnold Bennett Society Conference Papers, 4 June 2016 (分担部分: “‘And He Wanted My Advice’: Arnold Bennett and T. S. Eliot”, 47-56)
- ・Randi Saloman, Fiona Cole and Carol Gorton (eds.) *Arnold Bennett Abroad* (co-author), Arnold Bennett Society Conference Papers, 6 June 2015, 2016.3.8 (分担部分: “Arnold Bennett and the Contemporary Japanese Reader”, 23-32)
- ・日本英文学会編『第 86 回 Proceedings』, 日本英文学会第 86 回大会プロシーディングス, 2014.9.16, 326 (分担部分: 「『文学趣味』、自己改善、ミドルブラウアーノルド・ベネットと読者たち」, 77-78)
- ・Arnold Bennett Society (ed.) *Arnold Bennett: A Wider Canvas* (co-author), Arnold Bennett Society Conference Papers, 9 June 2012, 2013.6.8 (分担部分: “From Altruistic Social Reform to Solitary Self-Improvement: Pocket Philosophy and the Self-Help Market”, 41-49)
- ・F-GENS ジャーナル編集委員会編『F-GENS ジャーナル No.5 報告篇』(共著), お茶の水女子大学 21 世紀 COE 活動報告, 2006.3.31 (分担部分: 「英語圏ジェンダー理論/表象研究会」 第 3 回文献討論会, 162-63, 共著者: 大池真知子)
- ・(書評) Erica Brown and Mary Grover (eds.) *Middlebrow Literary Cultures: The Battle of the Brows, 1920-1960* (Macmillan, 2012), *Studies in English Literature (English Number)* 通巻 57 号, 115-22, 2016.3.1
- ・(書評) スチュアート・シム著, 小泉朝子訳『デリダと歴史の終わり』(岩波書店, 2006.10.27), 『国際文化表現研究』 通巻 5 号, 401-02, 2009.3.26
- ・(書評) Kevin J. H. Dettmar and Stephen Watt 著 *Marketing Modernisms: Self-Promotion, Canonization, and Rereading* (The University of Michigan Press, 1996), 『D.H.ロレンス研究』 通巻 9 号, 29-32, 1999.3

## B. 本研究科着任後の研究活動（着任 2005 年）

### （a）国内外学会発表

- ・“Who and Where Are the 'Real Readers?' Everyday Reading Practices in English Midlands and Northwest”, SHARP (Society for the History of Authorship, Reading and Publishing) 2018, 2018.7, Western Sydney University
- ・「文学的経験と「多元的呑気主義」, 日本ロレンス協会第 48 回大会 シンポジウム「情動、共感、D. H. Lawrence とその周辺」, 2017.7, 東洋大学
- ・“‘And He Wanted My Advice’: Arnold Bennett and T.S. Eliot”, The Thirteenth Annual Arnold Bennett Conference, 2016.6, North Staffordshire Conference Centre
- ・“Arnold Bennett and the Contemporary Japanese Reader”, The Twelfth Annual Arnold Bennett Conference, 2015.6, North Staffordshire Conference Centre
- ・“Arnold Bennett and the Rising Generation in Imperial Japan”, Edwardian Culture Network, 2014.10, Keele University
- ・「文学趣味、自己改善、ミドルブラウ—Arnold Bennett と読者たち」, 日本英文学会第 86 回大会 第 4 部門シンポジウム「ミドルブラウという名の挑発」, 2014.5, 北海道大学
- ・「アーノルド・ベネットと clerical work」, 日本英文学会関東支部第 8 回大会 英米部門シンポジウム「work と 20 世紀転換期の英米文学」, 2013.11, 日本女子大学
- ・「竹村和子先生のお仕事—英文学研究者であることとセクシュアリティについて書くことと」, お茶の水女子大学英文学会 第 4 回年次大会 特別シンポジウム「竹村和子先生を悼む」, 2012.11, お茶の水女子大学
- ・“From Altruistic Social Reform to Solitary Self-Improvement: Pocket Philosophy and the Self-Help Market”, Ninth Annual Arnold Bennett Conference, 2012.6, The North Staffordshire Medical Institute Conference and Seminar Centre
- ・「少女は何を欲しているのか?—ガーティ・マクダウエルの交叉する視線」, 日本ジェイムズ・ジョイス協会 第 20 回大会 シンポジウム「ジョイスの少女たち」, 2008.6, 青山学院大学
- ・「第一次世界大戦と英国作家」, 日本英文学会第 80 回大会 Symposia 第 4 部門「プロパガンダ・インテリジェンス・20 世紀イギリス文学」, 2008.5, 広島大学
- ・「『ポスト国家／ポスト家族』言説のフロント—上野 [千鶴子]・西川[祐子]・春日[キスヨ]・竹村[和子]論文への応答 [『思想』(岩波書店) 2003 年 11 月号特集「ポスト国家／ポスト家族」掲載論文への応答と著者 4 名による再応答]」, お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム「ジェンダー研究のフロンティア」(東京大学ジェンダー・コロキウム企画運営協力), 2004.1, お茶の水女子大学
- ・“D.H.Lawrence, Arnold Bennett, and Architecture”, The Ninth International D. H. Lawrence Conference, 2003.7, ホテル 京都ガーデンパレス
- ・「産業と文学—『チャタレイ夫人の恋人』研究」, 日本ロレンス協会 第 28 回大会, 1997.6, 東京家政大学

### （b）国内研究プロジェクト

- ・科学研究費補助金 基盤研究 (C), 「実証研究にもとづく受容論の刷新—現代英国における文学テキストの生産・流通・受容—」(研究代表者), 独立行政法人 日本学術振興会, 2019.4.1-2024.3.31
- ・科学研究費助成事業 基盤研究(C), 「懐疑的解釈を超えて—現代英国における読みの実践—」(研究代表者), 独立行政法人 日本学術振興会, 2016.4.1-2019.3.31
- ・科学研究費助成事業 基盤研究(C), 「アーノルド・ベネットとその周辺—リアリズム小説における現実と表象の批判的再検討—」(研究代表者), 独立行政法人 日本学術振興会, 2013.4.1-2016.3.31
- ・お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム「ジェンダー研究のフロンティア」, 「ヴィクトリア朝後期およびエドワード朝英国における「男性性」の構築」(研究代表者), お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム, 2004.6.1-2005.3.31

- ・「ミドルブラウ文化研究会」(研究分担者), 中央大学人文科学研究所, 2014.4.1-2019.3.31
- ・「ジェンダー研究のフロンティア—〈女〉〈家族〉〈地域〉〈国家〉のグローバルな再構築」(研究協力者), お茶の水女子大学 COE プログラム, 2006.4.1-2007.3.31

#### (d) 研究会、シンポ等のオーガナイズ

- ・日本英文学会第 86 回大会 第 4 部門シンポジウム「ミドルブラウという名の挑発」, 2014.5, 北海道大学, 企画および司会
- ・日本英文学会関東支部第 8 回大会 英米部門シンポジウム「work と 20 世紀転換期の英米文学」, 2013.11, 日本女子大学, 企画および司会

---

## 6. 学内行政

### (B) 学内委員会

- 一橋ジャーナル編集部会委員 (2018 年 4 月~2020 年 3 月)
- ジェンダー社会科学研究センター教育部門統括 (2019 年 4 月~2022 年 3 月)
- 語学研究室幹事 (2016 年 4 月~2018 年 3 月)
- 学部教育専門委員 (2012 年 4 月~2014 年 3 月)
- オープンキャンパス実施専門委員 (2012 年 4 月~2013 年 3 月)
- アカデミックプランニングセンター運営委員 (2012 年 4 月~2013 年 3 月)
- 学生国際交流委員会委員 (2012 年 4 月~2014 年 3 月)
- 学生支援センター運営協議会委員 (2012 年 4 月~2014 年 3 月)
- 教育強化検討委員会委員 (2012 年 4 月~2014 年 3 月)
- CALL 委員会委員 (2011 年 4 月~2013 年 3 月)
- 教職課程専門委員 (2009 年 4 月~2011 年 3 月)
- 英語スキル科目ワーキング・グループ委員 (2009 年 4 月~2011 年 3 月)
- 附属図書館委員 (2007 年 4 月~2009 年 3 月)
- 全学共通教育専門委員 (2007 年 4 月~2009 年 3 月) ほか

---

## 7. 学外活動

### (b) 所属学会および学術活動

- Arnold Bennett Society 評議員 (2014 年 10 月~2019 年 9 月)
- Society for the History of Authorship, Reading and Publishing
- 日本英文学会
- 日本英文学会関東支部 編集委員 (2018 年 4 月~2019 年 3 月)
- お茶の水女子大学英文学会

### (c) 公開講座・市民講座

- ・一橋大学秋季公開講座「当事者国から見た第一次世界大戦」第 3 回「大英帝国」, 2015.10.24.

### (e) その他 (公的機関・各種団体・民間企業等における講演等)

- ・国立人文研究所じんぶんカフェ, 読書会ファシリテーター, 第 23 回 (2018 年 4 月 7 日) 第 25 回 (2018 年 7

---

## 8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

- ・ 国立市, 国立市男女平等推進市民委員会有識者委員, 2010.2.24-2012.2.23

---

## 9. 一般的言論活動

- ・ “From Tokyo to Arnold Bennett's Five Towns: Literary Landscape and Day-to-Day Reading Practices” *Arnold Bennett Society Newsletter* 第 6 巻第 2 号, 3-7, 2018.4
- ・ “Connecting Women East to West: Tokyo-Trentham” *NWR*, 2015, 20-21, Autumn 2015
- ・ 「Singled Out」『英語青年』, 37, 研究社, 2009.3.1
- ・ 「均質な社会と内なる他者」『英語青年』, 45, 研究社, 2008.12.1
- ・ 「リアリズムをめぐる冒険」『英語青年』, 47, 研究社, 2008.9.1
- ・ 「Imperial War Museum と忘れられた声」『英語青年』, 49, 研究社, 2008.6.1
- ・ 「Book Review 特別対談『家族という神話—アメリカン・ファミリーの夢と現実』」『HQ』, 52, 一橋大学 HQ 編集部, 2007, 7